

持続的開発に向け母国ペルーと祖国日本の架け橋に！ 2016 年度日系研修員受入事業修了式を実施

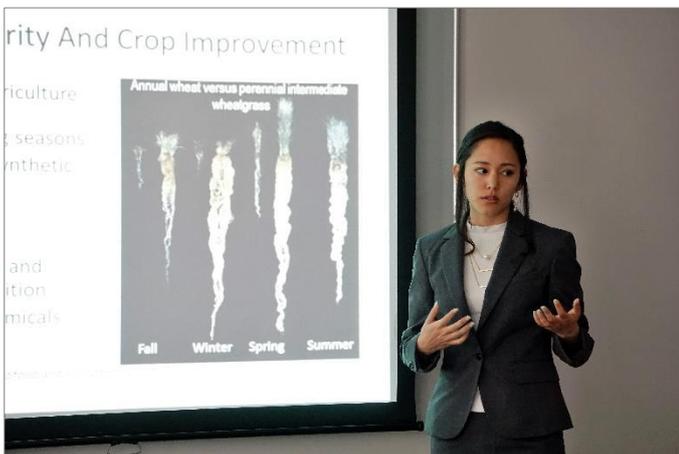
横浜市立大学と国際協力機構横浜国際センター（JICA 横浜）は、「2016 年度日系研修員受入事業」の報告会・修了式を平成 29 年 3 月 24 日（金）に JICA 横浜で行いました。

国際協力機構（JICA）は、中南米における日系人に対する技術協力を通じて国づくりに貢献するとともに、日系人社会の持続的発展を目指して大学、地方自治体、企業等での日系研修員受入事業を展開しています。

今回はペルー在住の日系人である MURATA SEPAROVICH Emi Jimena さんが平成 28 年 5 月からの約 10 ヶ月間、本学国際総合科学群・木原生物学研究所の坂智広教授（植物遺伝資源科学）の研究室で、「植物遺伝資源の多様性保全に関する先端科学教育」コースの技術研修に参加しました。

MURATA Emi さんは植物科学、遺伝資源の多様性の保全と持続的な利用についての研究成果発表後、今回の研修を通じて身につけた研究技術と経験を活かして「ペルー帰国後は CIAT（国際熱帯農業センター）へのインターンシップ参加や大学院進学を目指し、いずれは自分の研究所を設立し、ペルーの植物遺伝子学の発展に貢献したい」と抱負を語りました。研究室ではたくさんの日本人の友達ができ、また自らのルーツである広島親族を訪ね、四世代を越え地球の反対側の祖国をつなぐ新たな架け橋を築きました。

※技術研修の詳細は裏面に記載します。



最終報告会で成果発表する MURATA Emi さん（JICA 横浜にて）



修了証書授与式の様子。右から指導教員の坂智広教授、MURATA Emi さん、JICA 横浜市民参加協力課の倉科課長、今村課長補佐

お問合せ先

公立大学法人横浜市立大学

研究基盤課長

竹内 紀充

Tel 045-787-2019

独立行政法人国際協力機構横浜国際センター

市民参加協力課長

倉科 和子

Tel 045-663-3221

（裏面あり）

<参考>

1. 概要

- (1) 研修コース名：植物遺伝資源の多様性保全に関する先端科学教育
技術研修期間：2016年5月23日～2017年3月23日
- (2) 研修員名：MURATA SEPAROVICH Emi Jimena

2. 研修内容

(1) 研修日程

- 5月下旬
～6月上旬 講義「植物遺伝資源および最先端バイオテクノロジー理解」
- 6月下旬
～8月 実習「バイオテクノロジー実験技術習得」
- 9月上旬 講義「植物遺伝資源および最先端バイオテクノロジー理解」、「植物の機能性解析・開発技術習得」
- 9月中旬 実習「植物の機能性解析・開発技術習得」
- 9月下旬 見学・学会参加「高生産性作物開発の研究・評価、研修旅行」
- 10月～12月 講義「植物の機能性解析・開発技術習得」
実習「植物遺伝資源および最先端バイオテクノロジー理解」
国際シンポジウム・研究会参加 「植物遺伝資源の多様性保全に関する先端研究」
- 1月～3月 講義「植物の機能性解析・開発技術学習」
実習「高生産性作物開発の研究・評価」
研究取りまとめ

(2) 研修内容

- ・ エピゲノム及び植物育種学の講義の出席
- ・ 研究室就学活動（論文購読、研究セミナー、圃場実習）実施
- ・ 研修計画詳細策定
- ・ 「野生オオムギ遺伝資源の球茎形成メカニズムの解明」に関わる研究
- ・ 植物のゲノム情報解析のためのデータベースの検索と遺伝子単離のためのバイオテクノロジー実験技術（DNA, RNA 抽出、PCR 等）の習得
- ・ 植物の生育層転換と栄養成長誘導に関わる表現型変化の理解
- ・ 日本の平和構築と国際協力の歴史、日系移民と自らのルーツ探索による国際連携の人材育成の重要性を理解する研修
- ・ 日本育種学会の学会参加による研究成果の発表と議論、共同研究ネットワーク構築法を学ぶ
- ・ 植物の機能性解析・開発技術の習得（トランスクリプトーム、バイオインフォマティクス）
- ・ オオムギと野生オオムギ *Hordeum bulbosum* の生育層転換と栄養成長誘導に関わる研究材料の育成と解析
- ・ 国際ワークショップ、国内研究会参加による植物遺伝資源の多様性保全に関する先端科学を理解する